

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

ICT機器を効果的に活用しながら、学年をまたいだローテーション授業や、縦割り道徳（ブロック道徳）を、教師がチームを組んで行ってきた。また、学校行事や生徒会活動と道徳の授業を関連付け、道徳的実践の場を意図的に設定してきた。結果、教師力アップにつながるるとともに、生徒の話合いも活発になった。また、道徳の授業の中で学んだことを生活の中で思い出す生徒が増えた。

1 研究推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
愛西市立八開中学校	愛西市江西町川原11番地	0567(37)0684	97人	

2 研究課題

(1) 「考え、議論する道徳」への授業改善

- ア 学年の枠を越えたローテーション授業と、授業前後の短時間での検討会の実施
- イ 外部講師招聘による道徳授業の継続的な研修

(2) カリキュラムマネジメントによる「道徳的実践の場」の設定

- ア 道徳の授業と、学校行事・特別活動・地域との活動・生徒会活動等の連携
- イ 認め合い・議論・話合いの基礎を養うために、年間を通じて生徒のコミュニケーションスキルを育成する時間の設定

3 研究主題とその設定理由

「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実

－「考え、議論する」道徳の指導と評価－

八開中学校区は愛西市の北西に位置し、木曾川を挟んで岐阜県と隣接する、蓮田が広がる農村地帯である。人口の流出入が少なく、祖父母・父母が本校卒業生という家庭も少なくない。校区には八輪小学校・開治小学校があるが、本校は全学年単学級の小規模校である。素直で穏やかな生徒が多いが、幼少期からの固定化された人間関係や人とかかわる経験の少なさから、自分自身に自信がなく、なかなか活発な議論ができない。また、本校の職員構成を見ると、少ない人数であり、また教職経験が浅い教員も少なくない。このような職員構成から、職員間での建設的な議論は少なく、「深い学び」につなげるための授業研究や議論には、まだ至っていないという課題が浮き彫りになっている。令和3年度から完全実施の新学習指導要領の趣旨にあるように、道徳の授業においても、「主体的・対話的で深い学び」につなげていくことは、喫緊の課題である。

本事業を通して「深い学び」の充実、すなわち「考え、議論する道徳」に向けた授業改善を進め、道徳教育の充実を図っていきたい。

4 研究の概要及び特色

(1) 目指す生徒像

「自ら考え、自ら発信し、自ら実践することができる生徒」

<自ら考える生徒>

自分や相手などが所属する集団にとって価値あることを考える生徒

<自ら発信する生徒>

自分や相手などが所属する集団がよりよい集団となるために、自分の考えや意見をもとに議論する生徒

<自ら実践する生徒>

自分の持ち味やよさを自覚し、相手意識をもって行動して自分を高めていこうとする生徒

(2) 研究仮説

- ア 特別の教科道德の授業において、自分の考えや感じ方をもとに主体的に議論する場を継続的に設定すれば、自分や他者のもつ様々な価値観を感じ取ることで自己の考えを深め、進んで発信しようとする気持ちを高めることができるであろう。
- イ 特別の教科道德の授業で深めた価値観をもとに、総合的な学習の時間・特別活動・地域との連携・生徒会活動等、実践する機会を意図的に設定すれば、生徒は主体的に取り組み、道徳的实践力を高めることができるであろう。

(3) 研究組織

道徳教育推進教師を中心に職員を以下の2つの部会に分け研究を進めている。

- ・ 授業研究部会 主として研究課題(1)に対する研究を行う。
- ・ 道徳環境部会 主として研究課題(2)に対する研究を行う。

(4) 研究課題にかかわる取組

ア「考え、議論する道徳」への授業改善

道徳教育に精通した講師を招聘し、職員の力量を高める研修を計画・実施した。本校は全学年1クラスの小規模校であるため、全職員が学年をまたいで指導を行うローテーション授業を行っている。同じ資料で複数回授業をすることで授業改善を図り、少しでも多くの職員と授業を見せ合う中で職員同士の情報交換をし、職員一人一人の意識改革と授業力向上を図っていった。さらに、生徒においても、クラス替えがなく、クラスメート以外の意見を聞く機会はほとんどない。そこで、体育祭・地域奉仕活動の縦割り活動(ブロック活動)を活用し、期間を限定してブロックごとに道徳の授業「ブロック道徳」を実施した。今まで議論したことのない上級生や下級生と議論することで、より深い考えに至ること、そして上級生・下級生ともに尊敬しあえる関係になることを期待して取り組んだ。

また、本校の年間指導計画に従い、時間割の中に道徳授業部会を設定し、道徳教育推進教師を中心に短時間で効率的な協議会を行っている。授業前の協議会では、ねらいにせまるための主発問や授業展開の検討等を中心に行う。参観者は赤(改善点)・青(良かった点)・黄(疑問点)の付箋を持って参観し、その付箋を用いて授業後の協議会で検討した。さらに「考え、議論する道徳」のために、経験が浅い教員もそうでない教員も、「だれもができる道徳授業」を合言葉に、指導案を改善したり発問のパターンを例示したりしながら取り組んだ。また、道徳の授業においてはワークシートを使用して道徳ファイルとしてポートフォリオを作成し、生徒・教師ともに成長が実感できるようにした。

イ カリキュラムマネジメントによる「道徳的实践の場」の設定

本校で行っている既存のコミュニケーションスキルトレーニング「はちみつタイム」の時間を土台とし、年間通じて行うことで、議論するために必要な生徒一人一人のコミュニケーション能力を育成し、互いの気持ちをくみ取るスキルを身に付けさせている。道徳環境部会で内容を検討したり、結果を集約したりして生徒の実状をつかんだ。また、生徒主体の朝会である「集会」の内容についても、道徳の授業と連携させ、生徒自身のコミュニケーション力と自己有用感を高め、生徒が道徳的实践の場として自主的に活動できるよう、委員会活動の時間を効果的に活用し、担

当者を中心に計画した。

生徒会主催の地域奉仕活動（地域清掃）や、夏祭り・福祉まつりなどの地域ボランティア活動、さらにいのちの授業における地域の方々とのふれあい等も、道徳実践の場として道徳の授業と連携させる計画を立てた。

授業参観の保護者出席率が高い本校において、年間計画に「親子道徳」として、授業参観・学校公開・講演会を設定したり、生徒が書いたワークシートを綴る道徳ファイルを各家庭に持ち帰って保護者に目を通してもらったりするなど、保護者にも参加・協力を得て共通理解を深め、連携を図っている。また、学年通信や道徳通信を発行することで保護者の理解を深め、意識を高めるとともに、生徒の変容を捉え、評価に生かしている。

5 研究計画

月	実施内容	関連行事等
4～5月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容、研究目的の周知と共通理解 ・道徳年間計画の作成 ・研究計画と研究組織の策定 ・意識調査（本校作成） ・道徳授業一斉公開（授業参観） ・ローテーション授業の実施 	刈エーション（1年） 生徒総会 授業参観
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査（県教委作成） ・校内研修（外部講師B招聘）奥村桂子氏 個別講習「Q-U 検査の生かし方」 6.23 3・4・5限（学年ごと） ・校内研修（外部講師A招聘）土井謙次氏 6.28 15:15～講演「ICT 機器を使った道徳授業」 	修学旅行（3年）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による道徳の授業 助産師グループ OHANA 7.7 2限 2年生 「自分の心と身体を大切にすメッセージ」 ・ここまでの取組に対する資料収集と分析 ・改善点の考察等 	海部地区大会 いのちの授業（2年） ブロック結団式 校外学習（1年） 文化講座（1・2年） 薬物乱用防止教室（2年）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック別授業開始（1～3年混合クラス） 	体育祭
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック別授業の継続 ・校内研修（外部講師A招聘）土井謙次氏 授業観察・研究協議 10.22 5限授業 15:15～ 研究協議 	野外活動（2年） 福祉実践教室（1年） 地域奉仕活動 生徒総会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック別授業の継続 ・校内研修（外部講師C招聘）中村浩二氏 講演「生徒の思考の深め方」 「道徳授業の評価について」 11.20 家族学級後 13:00～ ・アンケート実施（校内作成） 	芸術鑑賞会 有志発表 学年合唱・作品展 家族学級

1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講演会 吉本興業 オレンジ 田中哲也氏 12.6 5限「いじめ防止活動」 ここまでの取組に対する資料収集と分析 改善点の考察等 	人権週間 ワライン職場体験（2年）
1 月	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践と評価 	
2 月	<ul style="list-style-type: none"> 意識調査（県教委作成） 本年度の反省と次年度に向けて検討 	3年生を送る会

※ 4、5月は事業実施計画期間とする

6 これまでの取組

(1) 授業研究部会の取組

ア 学年での取組の様子

本年度は、道徳の授業に不慣れな職員も授業ができるよう、外部講師の土井氏から学んだ「卵パターン」と呼ばれる、主人公が変化する箇所を捉えて主発問を考えていく形式の教材を中心に、シンキングツールや ICT 機器の活用、指導案の形式の工夫などを行いながら、生徒の思考が深まるように指導法を研究している。3 学年またいでローテーションをするため、3 週間ごとにテーマを設けて、それを 1 ユニットとした。ここでは、ユニット 3 「自分自身(自分を高める)」の授業実践の様子を紹介する。

(ア) 1 年生部会 《「しょうゆのふるさとを訪ねて」【C-(17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】》

1 年生部会では、1・2 年生の文化講座（筆の授業）や、3 年生の修学旅行の鎌倉分散活動を見据えて、我が国の伝統と文化に関する教材を扱った。主人公である「私」が日本のことについてアメリカ人に意見を求められ答えられなかった恥ずかしさに注目し、ふだんはあまり感じる事のない日本のよさに目を向け、改めてよさを感じられるようにすること、日本人としての自覚をもち、日本の文化とその継承・発展の大切さを理解し、日本の文化に目を向けようとする意欲を育てることをねらいとした。主人公がしょうゆのふるさとである和歌山県湯浅町でしょうゆ店主の話を聞いたことをもとに、主発問を「『私』が学んだことは何だろう」とし、生徒同士で話し合った。「伝統を守っていききたいという気持ち」「労働力より意思を雇うという考え方」「日本文化を大切にしたい」という意見が出た。授業の中で「文化の発展」という新たなしょうゆの開発にも触れたが、生徒の振り返りにそのような点がほとんど盛り込まれておらず、もう一步踏み込んだところまでどのようにつかませるかという点に課題が残った。



第3学年 道徳科指導案
令和3年6月16日（水）第3回 指導者 加藤 直正

- 主観名 「自分をつめ、生きることについて、考えよう」D-(22)よりよく生きる第1回
- 副観名 「あと一歩だけ、前に」出典「中学道徳2 きみがいちばんひかること 伊村啓博」
- 本時のねらい
スガシカオさんの曲の歌詞を通して、自分をつめ、人と生きていくことがどういうことなのかを考えさせ、弱さや悔しさを克服してよりよく生きていこうとする意欲を育てる。
- 資料分析(ワークシート)
主：主観や副観となる表現や記述、対象となる出来事や問題となる事象
石：根拠や理由、出来事や事象の原因や原因として考えられること

Progress	<ul style="list-style-type: none"> 弱さや悔しさを抑え入れる 理想と現実のギャップを自覚する 理想と現実のギャップから目を背けず進んでいく 失敗も成功も含め、自分の経験にしていける 前向きである
----------	---

- 指導過程

過程	学習活動・主な発問	指導上の留意点
1	「Progress」という曲について思い出す。	・資料(曲)への方向付けをする。
2	「あと一歩だけ、前に」、聞いて考える	<展開的>
3	歌詞の中で、共感できる部分はあるか。また、それはどんなことか。	・歌詞から、自分の経験などを考え、これまで自分を見つめさせる。
4	「Progress」に必要なことは、 ※ワークシートで考える	<展開的> ・自分に込められた思いや考え、将来での未来の自分を見つめるところへとつなげる。
5	今の自分にアドバイスしよう。	・ワークシートをもとに考えさせる。
- 授業評価

自分をつめ、生きることについて、考えよう	「Progress」に必要なことは?	歌詞の中で、共感できる部分はあるか。また、それはどんなことか。	今の自分にアドバイスしよう。
・前に進んでいる	・前に進んでいる・・・」	・「つまずいている・・・」	・もつと自分の経験を
・弱さや悔しさを抑え入れる	・弱さや悔しさを抑え入れる・・・」	・弱さや悔しさを抑え入れる・・・」	・もつと自分の経験を
・失敗も成功も含め、自分の経験にしていける	・失敗も成功も含め、自分の経験にしていける・・・」	・失敗も成功も含め、自分の経験にしていける・・・」	・もつと自分の経験を
・前向きである	・前向きである・・・」	・前向きである・・・」	・もつと自分の経験を

(イ) 2年生部会 《「あと一歩だけ、前に」 [D-(22)よりよく生きる喜び] 》

2年生部会は、これから始まる中学校総合体育大会に向けて、「自分を見つめ、生きることについて、考えよう」をテーマに、スガシカオさんの Progress という曲を教材として扱った。今回は ICT 機器 (iPad) を用いて、ロイロノートというアプリにあるクラゲチャートを活用しながら意見交流する方法を試行した。歌詞の中で共感できる部分はどこか交流させ、その後、Progress (進歩・発展) に必要なことは何かを考えさせた。展開後半で機器を用いて交流すると、終末の振り返りの時間が足りなくなってしまった。ICT 機器を用いて意見交流の際のデメリットとして、今後の授業では、発問を厳選して行うことが必要であると確認することができた。一方メリットとしては、入力後に互いの意見を瞬時に見ることができること、教師側も生徒の考えが把握しやすいことから、今後も ICT 機器を活用した道徳授業の研究を進めていきたいという考えに至った。

(ウ) 3年生部会 《「鉄腕アトムをつくりたい」 [A-(5)真理の探究、創造] 》

3年生部会は修学旅行 (水陸両用バス乗車・リニア実験線見学) を見据えて、授業実践を行った。「卵パターン」の教材が見当たらず、この教材も、2年生同様、クラゲチャートを用いて実践した。しかし、教材文にある「知的好奇心」「知的欲求」という言葉に生徒も教師も意識が強く傾き、様々な考えが出にくい状態になってしまった。教師側としては、今回扱う内容項目をしっかりと理解することの必要性を確認し、生徒は、どうしても教材文に書かれている言葉に左右されてしまう傾向があるため、部会では一度教材文を読んだら教材文をしまわせるのはどうかという意見が出た。今回の教材は本来は3年生の教材であるため、1年生にとっては内容が少々難しかったようで、やはり、知的好奇心という枠から出ることはなかった。3学年ローテーションの難しさも感じた。

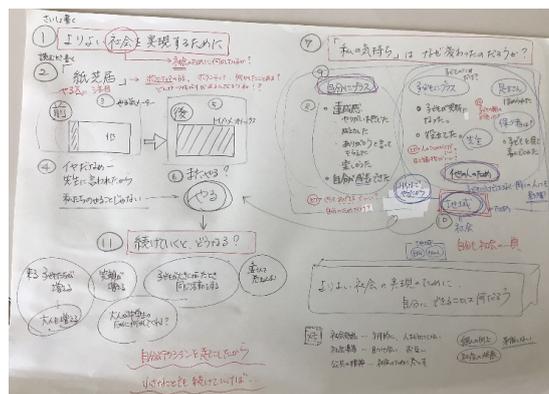


イ ブロックでの取組の様子

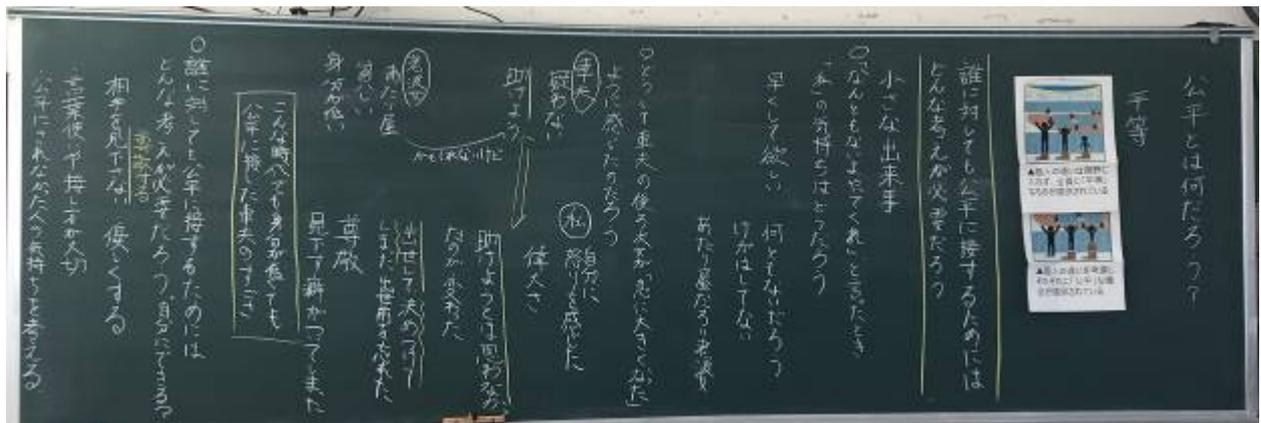
9月以降は、体育祭や地域奉仕活動の縦割り活動「ブロック」で道徳授業を行った。3学年の生徒が混在した「ブロック道徳」で、異学年交流による思考の深まりを期待して実践した。教師側も、ブロック担当でチームを組み、ローテーション授業を行った。ここではユニット6「地域社会」の実践を紹介する。

(ア) 赤ブロック 《「紙芝居」 [C-(12)社会参画、公共の精神] 》

この教材は、文芸部に地域の子どもたちのために紙芝居を上演してほしいというボランティアの話がきたという内容である。部員たちは議論するが、「私」は気が進まない。当日は会場係などの仕事も任せられ、てんてこ舞いの部員たちだが、上演後、笑顔で帰る子どもたちを見て「私」も心でガッツポーズをした。この教材を通して、社会に積極的にかかわっていくことの意味や大切さを考えさせた。事前に板書計画と教師の役割分担を綿密



て派出所に向かっていった。その後ろ姿が急に大きく見えたのはなぜかと問いかけた。生徒は、グループ討議を経て、様々な視点から考えを深めることができた。



エ 外部講師による授業の様子

生徒を対象に外部講師を招聘し、前後期それぞれ1回ずつ、授業や講演会を行った。新型コロナウイルス感染症対策のために保護者の参観は見送ったが、生徒は、ふだんの道徳の授業とは異なる様々な感想をもつことができた。

(ア) 命の授業 「2年生」 【C-(19)生命の尊さ】

生徒向け授業の外部講師として、「生」教育助産師グループ「OHANA (オハナ)」をお招きし、「命の授業」を行った。この授業のねらいは、「①自分の今あるいのちについて考える」「②家族の絆を大切にする」「③自己肯定感を大切にする」である。内容については、第2次性徴の体や心の変化、受精卵から始まる命、出産の経過やその後の様子である。映像や話だけでなく、実際に心音を聞いたり人形を抱いたりしながら体験的に学習した。事前に2年生の保護者に生徒へのメッセージを依頼し、この授業の最後で助産師が読み上げ、親の愛情について感じることもできたようである。



【授業後の生徒の感想】

- ・ アンケートで書いてもらったみんなの親の言葉で泣きそうになった。みんな、親に大切にされて、愛されているんだなあって。
- ・ 私は、何度か「自分は本当に生きていてよいのか」と思うときがあったけれど、今回の授業で、自分が産まれてきたこと自体が「キセキ」なんだなと思った。
- ・ 今まであまり自分の生まれた理由とか生きている意味とかがピンとこなかったけれど、親と同じように子供を育て命を次へ次へとつなげていくことが、自分が命をもっている理由なんだろうなと思いました。

(イ) いじめ防止活動 全校 【B-(6)思いやり、感謝】

吉本興業「オレンジ」田中哲也氏をお招きし、「笑いでいじめを吹っ飛ばせー!!」という演題で講演会を行った。全校生徒が体育館に入り、タオルを使った体操で心も体も和らげてから、「夢をたくさんもってもらえるようになってほしい」「SNSに上がっているコメントは気にしない」「いじめられる側からいじめられる側になったけれど」など田中氏自身の実体験を交えながら具体的なお話をうかがった。タオル体操では本校職員

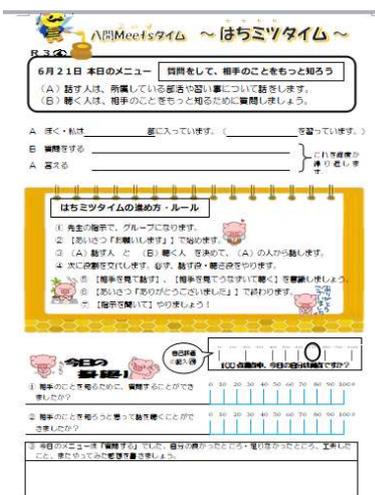
員代表も田中氏と一緒に取り組むことで、生徒との距離感を一層縮めることができた。



【講演後の生徒の感想】

- ・ 「いじめられている」ことを他の人に知られたくない、言いたくないという気持ちはすごく分かり、私の事情なんて知らないのと思うことがあった。そんな時に話せる友達がいたら、気が楽になると思った。講演会を受けて、少し気持ちが変わったと思う。
- ・ 夢はもっていなくてもいい、やりたいことが夢に変わる、という言葉が心に響いた。自分はまだ夢がはっきりしていなく、少し焦りもあったが、この言葉を聞いて気が楽になった。

(2) 道徳環境部会の取組
ア はちミツタイム



コミュニケーションスキルの基礎（認め合い・議論・話し合い）を養うために、月に2回程度、学級活動の時間に15分間ほど実施している。事前にテーマや本日のメニューについて検討し、実施後は生徒の感想を集約して通信を発行し、学校全体で意見を共有している。人によって感じ方や捉え方が異なることを理解したり、全く逆の対応をする人もいることを発見したりして、生徒相互の気持ちの理解に有効である。

一方、友達同士の気持ちのすれ違いや誤解を回避するためには有効かもしれないが、道徳の授業を行う中でなかなか生徒の発表の声が聞き取りにくく、「話す」「伝える」という基本的な



練習をこの時間に取り入れ、発表する際の話形を繰り返し練習（トレーニング）することも必要であると考ええる。

【取組後の生徒の振り返り】

- ・ だんだん質問が思い浮かばなくなってきたので、答えた人の発言をもとに質問しようと思った。
- ・ 質問されて二・三言しかしゃべらなかつたから会話がはずまなかつた。その質問についてくわしく言ったり付け足したりすれば話がはずんだんじゃないかと思った。
- ・ 最初の質問を大きな具体的な質問をしてから、そこからどんどん深めていくところを工夫した。

イ 道徳通信の発行・学校HPの作成・廊下掲示の充実・道徳ファイルの活用

保護者への啓発活動として、随時各学年・各ブロックから道徳通信を発行している。生徒が授業中にテーマについて考えたことを中心に掲載し、授業内で扱いきれなかった他の生徒の意見を知る機会にもなっている。道徳ファイルにも保存している。学校HPにも道徳の授業だけでなく、道徳教育の視点から様々な生徒の活動を掲載し、道徳の授業とのつながりが意識できるよう、地域や保護者・生徒への啓発を図っている。時には学級全体で学校HPを閲覧し、中には生徒自らHPを閲覧して話題にしている生徒もいる。「ブロック活動」掲示板には、道徳通信や賞状等を掲示し、生徒への啓発を図っている。



ウ 道徳的実践の場の設定

挨拶運動の切り上げが早すぎるのでは？	挨拶運動は7時50分～8時10分まで行っています。8時15分着席なので適当な時間ではないでしょうか。
寒い時期でも水は持って来なくちゃいけないんですか？ハンカチ・ティッシュを持ってきているかというチェックはしないんですか？	冬でも気づかないうちに喉は乾いているので、持ってきてもらいたいです。ハンカチやティッシュを持ってきているかチェックするのは、生活委員会の身だしなみチェックで行っていると思います。ですが、後期保健委員会でも提案してみます。
アルミ缶回収では一回でどれぐらいの数のアルミ缶が集まりましたか？	初日では回収数が0のときもあつたり少ないですが2日目は初日に比べ多く60缶以上は回収しています。



生徒会活動や学校行事を中心に、生徒が道徳の授業で学んだことを実践できるような場を設定している。

毎年行っている「地域奉仕活動」や、形式を変えた「後期生徒総会」、今年度新しく企画した「有志発表 Bees Show」などがそれに当てはまる。後期生徒総会では、ICT機器を活用し、委員長が作成した資料や報告に対してすぐに質問事項を入力し、それを読んだ委員長は瞬時に返答するというリアルタイムな活動を行った。全校の前ではなかなか質問するのは難しいが、今回 65 の質問が集まり、各委員会委員長と生徒会役員を除けば、自主的に 1 人一つ程度の質問をしたことになる。また、地域奉仕（地域清掃）活動を終えて、生徒の感想には道徳の授業で考えた事柄が現れているものが見受けられた。有志発表では、出演した生徒から、「新しい体験ができてよかった」「緊張したがとてもいい経験になった」という感想が見られ、一方見ていた生徒へのインタビューでは「ふだんと違う姿が見られて驚いた」などという感想が聞かれ、双方ともに新たな一面を感じる事ができたのではないかと思う。

心に残っていること
奉仕作業に感じた達成感が、道徳のボランティアの読み物を
読んだときに想像していたものと類似したこと

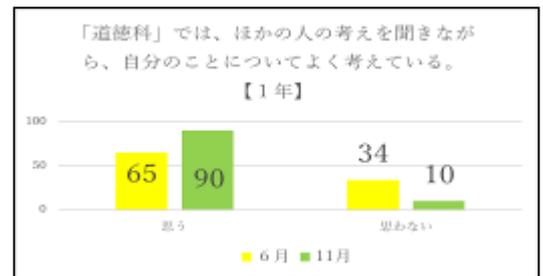
今回の体験・経験を踏まえて、今後生かしていきたいこと
一生懸命やることで、やる前には後では風景が全く違って、
一生懸命やることで新しい物が見えたりではないかなと思った

★有志発表の感想
発言したかとても... 緊張気味になった。
また、できるチャンスがあるならまたやりたい。

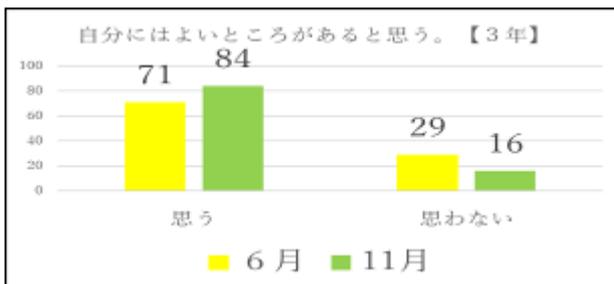
7 研究の評価

(1) 研究の成果

- ローテーション道徳を計画的に実施し、チームで授業に取り組むことで、職員の道徳の授業に対する意識が向上するとともに、教師力アップにつながった。特に、指導案や授業スタイルを工夫したり、定期的に各部会やブロック会を開催したりしたことが効果的であった。
- ブロック道徳を通じて、今まで交流したことのない仲間と討議することで生徒の考えが深まるとともに、特に討議の中心となった3年生の自己肯定感に大きな変化が見られた。



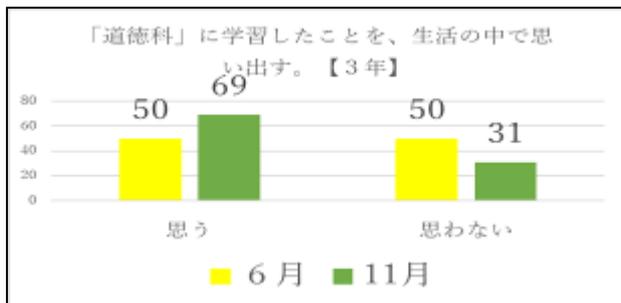
自分の意見を少しずつでも言えるようになったこと。小学生の時は自分の意見を反対されたらどうしよう、という気持ちの方が大きかった。中学生になってからは「自分の意見を少しずつでもいかに言おう」という気持ちになったから。



他人の意見を、思いも知らずと、自分にならぬことを取り入れ、水もこぼれ果れた。普段、生活で物事を考える時、様々の視点から考えたりおにに傾きました。思いが弱く、年々、大にできぬことが、物か、おぼれ、少しはできたり、おぼれ、おぼれ、おぼれ。

- ICT 機器を活用しながら4人グループでの話し合い活動を中心に授業研究を進めることで、生徒の記述がデータ化され、授業中に教師が生徒の意見を把握したり通信やHPに活用したりできた。授業者以外も生徒の考えがいつでも把握でき、評価に生かすことができた。
- 学級活動や生徒会活動で、担任や担当者が道徳教育の視点から教育活動を行えば、道徳の授業で学習したことを生活の中で思い出す生徒が増えてきた。

色々の道徳の授業を受けて、自分の行動や活動を見直すように
 なりました。友達と話す時は、今までは一方的に話してしまっていた。
 言葉の使い方は、気にすることが少なかったけれど、話し合いに意識する事が多
 くなりました。今までは、道徳は、苦手な科目だと思っていたが、話し合いの
 友達のことを思い、自分の考えが伝わったり、深めたり、おもしろいと思うように行いました。



Youtubeを見ていたら、そこに書かれています。YouTubeを見て、
 4人のことを思っていました。

相手の気持ちを考えて、理解しようと思えるようになった。
 授業で授業で学んだ内容と思い出して、自分と比べていたりしている。

(2) 今後の課題と取組

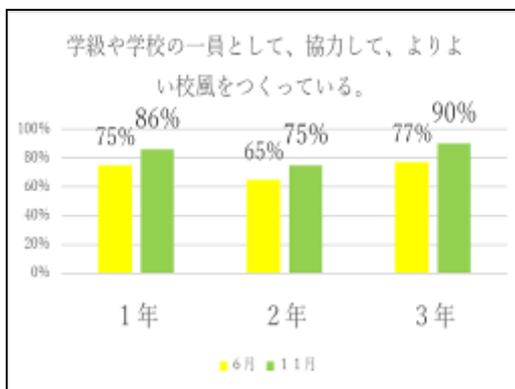
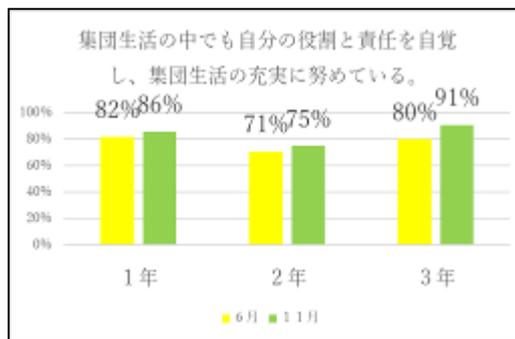
- ブロック道徳後のアンケート結果では、1年生の「自分の意見を伝えている」に対して、数値変化はほとんどなかった。2回目のクラス道徳では活発に意見交流する姿が見られたが、ブロック道徳では、1年生が2・3年生と討議することに対して遠慮しがちになるため、異学年交流では下級生が自分の考えを十分に伝えきれなかったと考えられる。



- 道徳授業において、生徒に討議させる部分ではどうしても教師が意図する方向に引っ張ってしまう傾向がある。教師がわざと異質な意見を言ったり、生徒の意見を流さずに細かく拾ったりすることで、生徒の話し合いを深めていきたい。

また、チームで道徳の授業を行っているが、T2やT3がどのように生徒のサポートに入るのがよいか、これからの研究課題の1つである。

- めざす生徒像について、アンケート結果から「集団生活の充実」「よりよい校風」に関する項目がどの学年も4～13%上昇している。先述した生徒の様子などから考えると「自ら考え、自ら発信しよう」とする生徒が増えてきたと考えられる。道徳科の授業とふだんの生活の結びつきについても一定の成果は見られたが、先述の「道徳科に学習したことを生活の中で思い出す」のアンケート結果からも分かるように、まだ相手意識をもって行動していこうという意識が弱い生徒も相当数存在する。あと一步、「自ら実践する生徒」にはせまり切れなかつ



たのではないか。道徳と各教科との関連を把握し、適宜担任や担当者から道徳授業について触れるなどして、道徳授業を中心とした道徳的实践力を高めていきたい。